

令和3年度 第4回沼田市市民構想会議の概要について

- 1 日 時 令和3年11月11日（火）午後2時から午後4時
- 2 場 所 沼田市立図書館 視聴覚室（図書館4階）
- 3 出席者
 - （1）委員 栗原明男委員、池田進一委員、小林昭紀委員、田村博史委員、高橋秀幸委員、小林美幸委員、小林彰幸委員、小林好委員、阿部健委員、山田龍之介委員、武井義明委員、山本隆一郎委員
（12名）
 - （2）アドバイザー 篠田 暢之氏
 - （3）沼田市 五十嵐副市長、諸田総務部長
（事務局：星野企画政策課長、生方課長補佐兼政策推進係長、清水副主幹）
- 4 配付資料
 - ・ 次第
 - ・ 令和3年度第3回沼田市市民構想会議の概要について
 - ・ 第4回「沼田市市民構想会議」
- 5 概 要
 - （1）開 会（事務局：企画政策課長）
 - （2）会長あいさつ田村会長
 - （3）前回の会議結果について 【事務局から説明】
 - （4）議 題（事務局：企画政策課長）
 - 1）検討テーマの協議と絞り込みについて
 - 2）その他
 - ・ 次回の会議日程について
＜第5回＞ 12月22日（水）午後2時から
- 6 議題内容
 - ・ 詳細については、別紙発言録のとおり

【会長】

皆さんこんにちは。今日のニュースでは、デジタル田園都市国家構想実現会議が国レベルで開かれて、今後、地方のデジタル化が進められる勢いです。

この会議におきましては、市民生活により近いところのご意見をいただき、提言に繋がりたいと思いますので、皆さんには遠慮なく積極的なご発言をお願いいたします。次第の通り前回の会議結果について事務局から報告をお願いします。

【事務局】

それでは前回の会議結果を報告申し上げます。令和3年度第3回市民構想会議の概要及び発言録を事前に送らせていただきました。

第3回会議につきましては、10月5日（火）午後2時から、こちらの会場（図書館4階視聴覚室）で開催いたしました。

篠田先生にアドバイスをいただき、今後「こころの知能指数（EQ）」を意識し、沼田の未来のまちづくりを考えるとという視点から、「なぜ・何のために」と問う粘り強い議論が求められているとのお話がありました。

内容といたしましては、経済や産業、観光、文化振興、市民生活、医療・福祉に関すること、また、とりわけ人材育成が必要であることのご意見をいただき、本日以降、優先順位を決め、議論を進めることを確認して終了しております。

【会長】

本日の議題は、検討テーマの協議と絞り込みについてでありまして、初めに篠田先生からアドバイスとしてご発言をお願いいたします。

【篠田先生】

激変する「社会、経済、文化」対応の重要性については議論の導入部分で、ロナ禍後のアフターコロナの社会を、DXを軸に据えて議論を進めましょうとのご示唆があり、再確認のため明記しました

ここには今後の議論を深められる手掛かりとなる皆様方の言葉がキーワードになっていると考えます。キーワードとしたご発言について、不足しているとお考えの方は遠慮なく、この場で、後ほどフォローしてくださると助かります。

裏ページの、2ページ目はご指名によりショートレクチャーで30分の時間をいただいております。お話させて頂いた際の言葉です。「IQからEQへ」「心に寄り添う時代の未来」をどう描くか等、社会が大きく価値観の転換時代に入っていること。そのひとつにデジタルがあり、その対極に、「人間力」があると指摘させて頂きました。

DXの進歩・発展は、同時にそれを扱う私たち人間の側のアナログ世界の重要度が高まっていく社会でもあり、人間力の回帰が始まっているとお伝えしました。

2、3番は、今日ご出席の皆さま方から積極的なご発言をいただくための導入としたい入口として、前回にお示しした部分をあえて抜き取りました。議論を進めるための手掛かりとして、皆さんのご意見の出発点にさせていただければと考えました。

4番は今後の会議スケジュール（案）で、今年度は何分にも忙しい委員会になると分かりましたので、7回目となる2月にまとめた内容を、おそらく例年通りでは3月初めに会長さん副会長さんから、皆さんのご意見を集約した提言書として、市長さんに提言としてお伝え頂く予定になると思います。

【会長】

それでは、この4つに絞り込んで、それぞれご議論をいただくという形で、議論を進めていくことについて、ご意見ございましたらご発言をお願いします。

【委員】

先日、ある会議の中で話題となったのは、人口減少と高齢化による深刻な事態でした。役員も少なくなり、役職を掛け持ちして大変だと言う話があり、そういった問題はDXとどう結びつけて解決ができるのか、思いつきません。

【会長】

人口減少と高齢化の問題はこの4つの議論の柱の中に当然入ります。その対策としてDXをどう活用していくのか、ご意見いただく形で進めさせていただきます。

それでは①（農・商・工、振興のDX）についてご意見をいただくに当たって、今どのような取り組みが、世の中では進められ着手され始めているか、事務局で何か情報があれば、示してもらえますか。

【事務局】

農業分野では人手不足が進んでおり、様々なところで自動化・無人化が進められています。一部、地域によっては不足を補いつつ、新しい農業への転換を、デジタル技術の積極的活用を進め、効果を上げています。

商業、流通やサービスの部分では、自動化がかなり進められています。仮想現実と呼ばれるバーチャル・リアリティ、あるいは話している言葉を手話に翻訳して画面に映し出す等、外国語を日本語に変換するものも進められています。

生産分野では、やはり無人化・自動化のほか、種々な検査や安全管理を、センサー技術を活用して、人の作業では届かない部分を補助し使われている状況です。

【会長】

先生、何か導入議論のアドバイスを頂けるとありがたいですが。

【篠田先生】

人口減少、高齢化のお話がありましたが、この問題は日本中で分野を問わず、深刻な社会的問題です。70年代に入り、国立社会保障人口問題研究所から人口問題に手を着けないままであれば日本は早晩、国力衰退につながる事態を招くと警告されていました。人口問題対策は即効薬がなく長期的な配慮が求められているからです。高度な政治的判断に基づく問題解決が人口問題対策です。

結果的に日本は2008年から少子高齢化の本格的到来を迎え、国の足元が根本的に揺らでいます。未来の日本を危惧し、警鐘を鳴らされた最初の首相が福田康夫氏でした。福田首相は公約に人口減少対策を掲げられた稀有な政治家でした。

非婚化・晩婚化・晩産化の3点をあげ、これらの対策を急ぐ必要があると問題提起されました。しかしこの問題は国会内では放置され続けました。そのため今や業種・分野を超え、日本はこの問題であらゆる組織や企業が悩まされています。

地域活性化が叫ばれても、最近まで活性化を議論する際に、少子高齢化の人口問題が正面から論じられることも少なく、まちづくりに活かされる議論は希薄でした。つまりこれまでの議論がこの問題を軽視していたからです。将来を展望し誰もが「自分事」として、この問題を考えることが喫緊の未来対策でもあり、考える時に来ています。

【会長】

ありがとうございました。

例えば商業について言えば、やはり消費者人口である購買人口が小さい沼田地域では大変苦戦していると耳にします。苦境打破のために圏域から出向き、商圈拡大の営業を仕掛ける等の努力をしているお話を聞いたこともあります。

ご発言をお願いします。

【委員】

私は菓子屋として、おまんじゅうの製造・卸販売をやっていますが、倅が専門学校を出たおかげで、学校で学んだ知識の活用のDXに助けられて、むしろ売り上げは向上しています。

お陰で、遠隔地にまで営業に出なくてもホームページ等を立ち上げたため、商品の注文が入り、今日も東北の事業者さんからの発注などがあり、3カ月前は北海道の事業者さんからオファーがありました。

団塊の世代の私の年代ですと一番人口が多い層ですがITに疎く、DX関係は倅にまかせていますが、着実に成果を挙げており、商業の世界ではDX活用が成果を挙げることになると実感しています。うちの商売では残念ながら地元の売り上げはほぼゼロに等しく、市外・県外のお客様がほとんどです。

県外でイベントに出るとキャッシュレス化が進んでいると肌で実感します。

【会長】

具体的なお話を、ありがとうございました。

【委員】

今回の市民構想会議とDXが私の中では、どうも繋がりにくく、せつかく、皆さんいろいろなところから集まっておられ、もうちょっと議論する軸を考えた方がいいのかなと思います。

【会長】

ありがとうございました。

商業分野ではホームページ上のインターネットによる営業（取り引き）が急速に増えています。対象の商圈が利根沼田でなくてアウトリーチして開拓されている。沼田地域だけで商売という地域限定の考え方が、今は難しい時代に来ているというご発言でした。

また、DXに繋げる議論が、難しいとのご指摘ですが、先生のレクチャーにもありましたが、いわゆる技術的なことで、むしろ大きな可能性を秘めたひとつの手段として、これからのまちづくりを考えましょうという提言だったと思います。ほかにご発言をお願いしたいと思いますが。

【委員】

商業のDXと言えば、キャッシュレスに関係することになります。

沼田市はtengoo（てんぐー）を昨年度から始められ、いま懸命に取り組んでおられますが、当初は私の理解では、外の地域の決済手数料などが他地域に落ちていたのを何とか沼田地域に取り込みその分の流出分もまた回収していきましょうという発想で始まっていたと思います。

丁度、先日も取引先のスーパーの社長が話す機会があり、当初はチャージする負担がかかり、面倒くさいと感じておられたようです。その理由はお年寄りの方々が夕方レジに並びお財布から小銭を出し入れするのに時間が掛かり、夕方の忙しい時間帯には買い物客で混雑し、時間がとられていたそうです。しかし、最近tengooが浸透して、みなさんもう慣れたので非常にスムーズに買い物ができ、レジ待ちが少なくなったと、思わぬ効用があり、今ではtengooシステムに感謝していますよ、というお話がありました。そんな訳でこちらが想定していたDXの効果というのが、違う側面で波及的にメリットとして広がっていたと話を伺い、誰にもメリットがある、DXによる合理化を実感しました。

【篠田先生】

DXは現代の社会が求めた1つの最先端技術だという点です。委員の方々からご発言のあったように効率化・合理化・省力化につながる技術によって、誰もが今

まで以上に身軽になろうという社会変革の技術です。ですから利活用によっては何十人分の仕事を、ボタン一つの操作で可能となる等、社会から私たちを労働ストレスから解放してくれる技術です。様々な自動化の技術はそれらの一部に過ぎません。

デジタル技術を応用するDXに対応する技術はアナログです。アナログは人の手を介してできる固有の世界です。アナログはDXが進めば進むほど、私たちは人としての、アナログを求め始め「心に寄り添う」人間関係が重要性を帯びてきます。貴重な一度の人生を生きている私たちには、効率化・合理化・省力化ができればデジタルに任せ人間の本来の生き方に、力を注いだ方がより良いという理解が基礎にあるのです。

ひとつの例ですが、山林荒廃が叫ばれて久しい日本ですが、最近ではドローンを使って簡単に山林面積やそこに生えている樹木の樹種や生年を正確に短時間で集計でき、木材の資産価値まで一気に判断できる時代がDX技術を活用して始まっています。林業を業（なりわい）にされる方にとって毎日、山に入り木材をメジャーで測るような手間ひまを掛けなくても良いのです。後継者不足が心配される中で、これは大革命です。

これこそデジタルの功績ですね。山林境界は従来、極めて曖昧でしたが、この技術を活用すれば、すぐさま明快に線引きできると言われています。宇宙時代を前にしたデジタル技術の進歩は、AI活用を基本にした「スマート農業」にも、活用され従来の農業生産現場を、今後は大きく変えていくことは明らかです。

先ほど委員さんのご発言にありました、この地域ではお客様がいなかったけれども、DXを活用して外に発信したら、経営がうまく行き成り立つようになったという報告がありましたが、まさにそれですね。しかし、同時にデジタル社会になっても、取り残さない・取り残されない人々の暮らしをどう支援するかの議論も市民構想会議では軽視してはならないと思います。

【委員】

商業はお店を持たなくてもネット空間で、商売が成り立つ時代が来ていると思います。そういう時代に、全国・世界を相手にインターネットSNSを利用した形での商業でないと生き残れないのが現実だと思います。

ことに、コロナ禍においては、いわゆる通販業界が伸びており、地元相手だけでは難しいのが現状です。朝、戸を開けて今日はお客さんが来るかなと心配しているよりも、インターネット活用、いわゆるDXを活用して進めていくことが求められていると思います。

農業ですが、隣村のこんにゃくは大規模省エネ化で、一軒の農家が10町分、20町分と作っている状況です。大規模営農からも「スマート農業」というDX活用技術が期待されているのだと思います。

コロナ禍で小中学校・高校もそうですが、バーチャル・リアリティーの修学旅行、これをかなり実施しています。実際、現地に行ったような気分になったという話を高校生からも聞きました。ぶどう園・りんご園・いちご園を全国の大規模な老人ホームやそうした施設と連携してバーチャル・リアリティーで、りんご狩りをしてもらう。前もって用意して「あなたが収穫したりんごを、今から剥いてあげますよ」という形で食べてもらう。収穫はバーチャルですが、そういうネットワーク作りを考えることも、デジタル時代の工夫でできることです。

高齢者が人口の3分の1を占める時代ですから、遠くへ行かなくても、昔、行ったりんご狩りがしたいという方たちに、日常生活を送る空間にしながら、別の体験ができることも一つの農業・観光振興ではないかなと思います。

今の話題とは違いますが、沼高と沼女が統合すると上毛新聞等にも出ていました。統合する高校は魅力あるものにしたいと載っていますし、県教委の方も、そのような考えのようです。そこで一昨年ですか、2019年12月に文科省がGIGAスクール構想を打ち出し、2023年くらいにはこの構想を実施・運用したいと言っていました。コロナの拡大でこれが前倒しになり小中高校も1人1台、端末タブレット等が行きわたりました。このGIGAスクール構想がITを活用して、プログラミング教育や、教育自体を、画面を通じてやるようで、既にもう国も群馬県もデジタル県を宣言しておりそれを考えると、地元の新しい統合高校について、デジタル高校を目指す、統合の高校を県下に先駆けて提案していくと沼田に学生を呼べると思います。そういう形で沼田の高校はやっていきたいと早めに打ち出すことは、沼田のこの地域に住む者の役目かと思います。

【会長】

一つはインターネット、VR（ヴァーチャル・リアリティー：仮想現実）などを上手く使って、商売に繋げ振興していく。また、農商工もそれぞれの産業だけでなく、共同してコラボし、進めていく取り組みの重要性を提案頂きました。

今、デジタル世代よりさらに若いときからネット環境に慣れている、それこそデジタルネイティブ、ネットネイティブな子ども達が育っていく中で、デジタルに特化した高校を建学する。今の点を含めてほかにご意見がございましたら、遠慮なくご発言をお願いします。

【委員】

先ほど委員さんから、高校再編の話で提起がございましたが、私はキャンパス（学校敷地）の問題を指摘したいと思います。実は小学校、中学校は統合されると、そのキャンパスが一切廃止になっています。活用次第では確かに良い活用が可能になる場合もあります。高校の統合では相当の面積があり、その再利用問題を含め、統合的な学校名を付して特色ある学校を残すような、利根沼田地域に見合った計画が必要かと思っています。

群馬は熱し易く冷めやすい上州人気質があると指摘され、その象徴が沼田だと言われたことがあります。やはり高齢化は止まる様子が無く、文化協会に加入している団体が消滅していきます。若い頃は入会を勧めれば入会する人が多くおられました。最近は全く逆です。熱し易く冷めやすいという話につながるのですが、現状からは高齢化が進み、動けなくなる人も増え、車も使えないという方も出てきて、会員が減り団体が消滅していきます。本当は、地域を駄目にしないためにも、新しい人を勧誘する努力をしないと、増々運営が困難になり困っています。

それぞれ農商工の団体でも特徴的な活動をされている団体さんもあります。しかし、それが点で終わっているように思います。点が面まで広がらない。そこに問題点があるように思います。デジタルやDXでこうした問題をどう乗り越えていけるのか、それぞれの世代で考えていく必要があると思っています。

【篠田先生】

皆さん、それぞれ真剣に考えておられ市民構想会議としては意義深く、どのお話も無視できない内容とお聴きしています。未来の沼田のまちづくりという視点から申し述べさせて頂くと、以下の視点を再確認する必要があると感じました。

いちばん重要な問いは何か？という、根本的な「問い」です。考えることの根本原理を問う哲学では「問わなければ、答えはない」と教えています。問わなければ答えは出て来ないという訳です。市民構想会議では可能な限りこの街を「どうしたいのか」をそれぞれの立場から根本的に問う、そういう議論が必要ではないかと思えます。

先ほどお話があった、お菓子が売れない現実を前に「売る」方法をインターネット販売にされたことで、販売促進につながったという素敵な報告がありました。

「売りたいが、どうしたら良いか？」という問いが、成功例を生むきっかけになったというお話ですね。あるいは、バーチャルでリンゴの収穫体験してもらい、実際はリアルなアナログ感覚を大切に、目の前でリンゴを試食してもらうお話など素晴らしいアイデアです。発想自体がD Xへ転換されている内容だと思えました。

私が知る事例では全国展開のお土産屋さんの話です。海外からインバウンドで来られた方が、帰国の際に日本のお菓子をお土産として大量購入されていく為、売りに貢献していたそうです。がコロナ禍により、特に関西空港と中部新国際空港の店舗は、売り上げゼロになり、さすがにこれでは困るという訳で、社内で議論の末にホームページで「お菓子、要りませんか」と掲載したところ、すぐさま反応があり、老人施設や高齢者施設、病院等から、品切れになるほどの大量注文が連日入るようになったそうです。ホームページの活用が売り上げ貢献に優れた効果を発揮した好例です

店舗出店を初期投資のリスクを背負い進めなくてもパソコン画面上にホームページ内でお店を開けば、管理も格段に簡単で管理経費も安く済み、成功可能性が高ければ利用する価値があります。ホームページ作りで成功できたのも、デジタル・D X時代に必要とされた新たなビジネス・モデルと言えます。

【会長】

ここで休憩をとらせていただきたいと思います。

5分程度で、再開したいと思しますので、よろしくお願いします。

***** 休憩 *****

【会長】

それでは再開をさせていただきます。先ほどの、G I G A事業について、元教育部長がおられますのでその辺の状況を説明していただければと思います。

【諸田総務部長】

まず、一点目はG I G Aスクール構想。これは去年随分盛り上がり、基本的には今、小、中、高校生、全てに一人一台タブレット型のノートパソコンが入って授業に活かしてもらっています。どうやって、より良く活かしていくかが今の課題ですが、これで全てを行うという訳ではなくて、一つの道具（ツール）として活用するスタンスになっており、先生と子どもさんの対話というものが指導上は大事で、そこを中心にしながらその補助的ツールとして最低限活用するという事になっております。

例えば自宅でも学校と連絡ができるとか、シンプルな使い方として、写真を撮り皆さんで共有するなどコミュニケーションツールとしても、すごく活用されているということです。

今、市の方で進めていますのが、市民の皆さん一人一台、スマホを持って頂けるとありがたいなと思っています。少々、極端な話ですがスマホは、いろいろなこと

ができ当然、使い方によっては、それぞれのコミュニケーションを広げるということにも使われています。

沼田市は防災沼田というのを今年はじめました。今まで防災行政無線はスピーカーで流していましたが、スマホに情報を流すようソフトウェアでやっています。スマホ活用にも課題がありますが、なるべくお守り代わりに持っていただければ有り難いなと思っています。

スマホには位置情報（GPS）機能がついていますので、高齢の方がどこに徘徊されても、スマホを持っていて下されば居場所が即分かりますので、そういった身の安全確保の使い方もできると思います。

もう一点、庁内のDXの状況を簡単にお話させて頂きます。今、市役所も行政全体で強力でDXを進めています。国の方でデジタル庁ができ、国からも進めるようガンガン要請があるからです。以前、お世話になった田村先生の研修も全職員が受けています。それは人材育成が大事だということで、DXに対する考え方の共通意識を持つことを進めていますので、ご理解が頂ければと思います。

【委員】

少子高齢化の時代で、子ども人口も減っていきますので、そうした部分をデジタル化の技術で補っていくことで、人口が減少しても不自由のない、便利な世の中であれば良いと思います。

【委員】

農業は続けることが大変重要な取り組みだと思います。継続して経営を成り立たせることが、未来に繋がると感じています。農業で収益をあげるには耕地面積を広げることに加えて、その後をどう利用するかが大変重要と考えております。

そうした意味からDXを使うのであれば、マッチングアプリを作って農地が足りない方や、新規就農をされる方にそうしたアプリの活用ができるようになると良いかと思います。誰もが、アプリを気軽に利用できて、使ってもらえるようにするということがこの点でも重要かと思っています。

やはり観光が、これからの農業にとっても有用な活用ができるのかなと感じています。「じゃらん」とか、そういったデジタル手段を有効利用するということを推進するように考えて頂けると、農業の未来も明るいのではと感じます。

【委員】

地域の人を受け止め方は、隣が良くなるとうちが駄目になるという考えです。そういう根性を捨てないと駄目だと思います。市役所と共同してホームページ作製に取り組んでいますが、利根沼田は人が良くなると、助け合い精神が足りないから折角の努力が何時までたっても実らないです。

お客さんにすれば、あそこに行けば珍しいものが食べられるとか、そういう魅力づくりが必要な訳です。このままでは、伊藤園とか大江戸とかにはとても敵わないから、利根沼田で力を合わせ助け合いの精神を持って取り組んでいかないと勝てません。

【委員】

リモート農業特集をしたテレビ番組がありまして、無人のドローンで肥料、防虫剤、殺虫剤を散布して、収穫も無人のトラクターでと言った内容でしたが、特集でありましたので、そういった取り組みもいいのかなと思っています。

本業の方は、パナソニック内装建材の方でモノづくりをやっています。10年前からもうDXの方の活用をやっています。製品の自動検査機であったり、AI

で検査したり、お陰で目視では見逃すようなモノを、D Xによる検査で非常に楽になっています。

【副会長】

以前から、沼田に感じていたのは、誰もが個々人になっていると街の空気から感じていました。良いものがたくさんあるのに、それを個々にしか発信できてなくて、小さいなっていう印象が拭えませんでした。

今回、tengooがものすごく普及したことに個人的にもびっくりしました。それだけ需要があることは、沼田市にとってこれが、ひとつの大きい柱になる力があるのではないかと感じました。そうした勢いを失わないためにも、D Xの活用を積極的に推進するべきだということを、今回の会議に参加して思いました。

マッチング的な要素に入れれば、農業や商工も、観光も、沼田のいろんなマイナス部分を補うことにつながると理解できました。

人手不足も、発信不足も、若い人がいる会社は、ホームページを作れる可能性があり、個々で発信できる力がありますが、今度はそうした力を会社や団体や地域全体の力に変えていく必要があると思いました。デジタルを活用できる手引きを一本化した、沼田市役所に専門の相談窓口ができ、相談したら力になってもらえる仕組みがあると助かる人も多いと思います。

皆さんが携帯を持ち、その端末を活用できる時代が、たぶん数年先を待たずほとんどの人ができるようになっていると思います。回覧板を紙で配るのではなく、メールで送信すれば紙代や手間費が不要となります。

例えば、遠くに居る娘さんが電話をかけると、15秒たつと画面が開き、お母さんがどうしているか見えるロボットがあります。そのロボットを触らなくても、そのまま会話ができるそんな時代が来ています。

【委員】

子供がスマホをいじっていると、見事に操作しています。私の孫はまだ保育園生ですが私より早く操作できます。逆に教育現場におられる先生方が、そこについていけないとも言われています。学校教育でいえば、端末を使い、いじめにつながる内容にストップを掛ける、ストップ機能をきちんと扱えない教員がまだ多いとも言われています。その現状からすると、これから教員のスマホ操作の力を引き上げる訓練を優先する時代が来ているように思います。中学生だとレベルの高いゲームのシステムを自分で作れるようになっていきます。

私たち世代は買い物にカードを使うことにも抵抗感がある世代です。それでも地域の中で、未来に向けて大事なものは大事だよと言い続けていく取り組みを大切にしていきたいと思えます。地域の生き残りの為にも、必要とされているものには、努力を惜しまず取り組んでいくことが文化かと思っています。

【事務局】

本日、欠席となっている委員さんの方から、ご意見をいただいておりますのでご紹介をさせていただきます。長文ですので、一部割愛をさせていただきます。

———「心の知能指数のEQが高い人が評価され、心の感受性の高い人が今後は社会的に求められているという指摘がありました。この点は文化協会の目指す活動そのもので、文化的な活動を通して心豊かに暮らせる地域を作っていくことがとても大切だと思っています。芸術に限らず、まつりや地域の芸能など、現代まで受け継がれてきた地域の文化を育成し伝承していく、今後のまちづくりは、これまで以上に文化的な活動が活発化し、後世にも継承されていく取り組みができるようにしていただきたいと思っています。」———とのご意見でした。

【篠田先生】

観光文化という分野が広く、何を対象としているのか、議論に先がけてその確定が必要です。観光振興のための観光資源やそれに伴う素材開発やその選定の議論なのか、観光開発を経済的視点から活性化していく議論なのか議論は大きく異なります。

ご出席のみなさんがイメージされる沼田の観光で何を具体的に思い浮かべられるか整理してみることも大切かと思えます。そういう問いかけを、ここで立ち止まって、考えてみることも、この構想会議としては大切ではないかと思えます。

それは、皆さんが思い描かれた沼田の観光文化を、他府県の人たちがそれをどう感じ受け止めているかという検証と議論につなげられるからです。漠然とした言葉としての観光にしる、文化にしる、リアリティーを持って皆さんご自身が率直に地域愛をもって、他府県の方々にどこまで語れるか、そこが観光を考える起点として問われていると思えます。異なる地域の方々には「もてなし心」（ホスピタリティー）が「心のごちそう」で、心優しく迎えて頂いていると感じられるポイントです。

この地域で観光と言え、今ではNHK大河ドラマの舞台となった地域として全国に知れ渡った真田の里が思い浮かびます。しかしそれ以外が分からない人が多いのではないかと想像します。委員さんが以前、リンゴ、リンゴと言うわりに、群馬のリンゴが長野県や青森県のリンゴとどう違うか、誰も言わないという鋭い指摘がありました。観光に必要な条件は京都や奈良の違いのように、差別化や特化です。その意識が希薄では、他府県の人々の関心を集められません。リンゴの価値を、他府県の人からすると、それが群馬産なのか青森産か長野産か、店頭表示が無ければ、一般的には素人には分かりません。地域では群馬産のリンゴが一番と言われていても商品として外に出されてしまうと見分けがつかないからです。

改めて観光と言ったときに、沼田の観光は何ですか？となります。NHKの番組のプラタモリで沼田周辺が詳しく報道されたので、それを観ていた人には、真田と沼田とこの地域の観光が、重なったはずですが、しかし、それも時とともに大部分の人の記憶からも薄れていくように感じます。

観光には、賞味期限切れにならないように絶えず情報の更新が求められています。観光がそうであるように、文化についても同様の問いが必要です。こういう問いかけは、観光や文化を否定するためではなく、「問う」ことでより良い「答え」が導ける意味から大切なのです。「問わなければ、答えはない」この点の確認が重要です。

【委員】

同じようなものがあったとしても、人が集まる条件を決めるのが食べ物ですね。秩父では“わらじトンカツ”があり、アピールするものがあるのです。群馬のリンゴの話は前回もしましたが、来てもらうのではなく、こちらから発信して魅力をアピールする。バーチャル・リアリティーを使って、沼田の観光が外でできて沼田の産品が売れる。沼田のものを買ってもらう発想が必要でDXは積極的に活用する必要があります。

持続可能な沼田市のために、DXやITをどう取り入れるか、そうした議論を急ぎ、取り組まないと遅れるばかりで、議論も進みません。市民の意識を180度変えないと沼田は駄目になると思えます。

【委員】

沼田の夏のお祭りですが、地元の方が沼田だけで楽しんで三日間で終わってしまいます。北陸のあるお祭りには、関西圏や関東圏から何百万という人がそのお祭りに参加します。ただ踊っているだけのお祭りですから、個人的にはまた行きたいと思いませんでした。それに比べ、沼田まつりの方が、もっと活気があり、参加できる楽しみがあると思えました。何故このお祭をもっと県外に発信しないのかと、常々思います。私からみると、県外へのPRが不足しており、このお祭りの楽しさを伝えていないからと思っています。ただ地元の人たちが祭りを楽しんでいるばかりで、非常にもったいないと思います。

【委員】

沼田市は森林文化都市とうたっています。では沼田市民が、本当に森林文化都市、沼田をどこまで理解しているのか、これをどう発信しようとしているのか、ご意見を聴かせて頂けませんか。

【篠田先生】

私は今から40年程前の当時、岐阜県からの要請により「アカデミー構想（大学院大学、研究機構）」を建白しました。そのひとつとして「森林文化アカデミー」開学を提起しました。後年この構想から準備が進められ無事に岐阜県立森林文化アカデミーが開学されました。開学準備委員として奔走しました。

その後は教授として森林文化論や自然哲学の系譜、森林文化と宗教思想等の専門性に立脚した講義を担当しました。そうした経歴から森林文化について少し触れさせて頂きたいと思い、ぶしつけですが無遠慮な申し出をしたことをお許してください。

30年前になりますが、沼田市に講演に伺い、初めて上毛高原駅に降り立った際にホームの壁に「森林文化都市、沼田」の大きな看板があり、真っ先に目に入り驚きました。現代風に表現された言葉が、私が建白した表現としてあったからです。

日本が国家として整えられ始めたころ、国家建設の礎を森林に求めその広範な活用を森林文化に求めることを奨励する言葉だったからです。これによりおよそ1300年前に書かれた、日本最古の書籍「古事記」の記述を、森林文化の表現から思い出し大変なところに伺ったと、身震いした記憶が、今も鮮明に残っています。

「古事記」の記述は以下のような話です。緑のない赤茶けた大地の日本に西は九州筑紫野から東は北関東周辺まで木の種を播き緑なす豊かな森林に育て豊かな暮らしを営むように整備したとあります。その大役を果たした神さまが「五十猛の命」（イソタケルのみこと）とあります。森林は私たちが暮らしを豊かに育む土台であり、命の豊かな母胎でもあると、その大切さが記述されています。山は心を整え、暮らしに必要な生活を整える力に与（あずか）る聖なる場所と考えられていたのです。「古事記」は長らく神話とみなされてきましたが、現代では科学的検証が進められ部分的には史実でもあると理解されるようになりました。

こうした経緯から、天皇陛下の国事行為の第一は「木を植え・育て・用材として、豊かな暮らしに活かす」大切さを説き示す取り組みです。戦後これが「全国植樹祭」として連綿と継続されています。日本で初めて沼田市が「森林文化都市」を掲げられたことは、大きな意味があり本当に驚きました。沼田市に心から敬意を感じました。

この社会的価値は今後、持続可能な社会実現の期待と共に、輝かしい評価につながると想像しています。観光も文化もストーリー性（物語性）が重要な意味を持っています。国内外を問わず、観光は素材として名所旧跡を基礎にしており、文化はそれを支える人々やそれを守り抜く伝統が暮らしに生きています。しかし

個々の事実や取り組みがあっても、そこに「物語性（ストーリー性）」が付与されなければ単に個別な事実があるに過ぎません。個々を結びつける「物語」が観光にも文化にも必要です。

森林文化はその物語性を総合化した人の営みを指しています。これらを現代の沼田がどう語るかです。山も川も暮らしも、人の住むところには、概ね形や名称は違っても、それらはどこにでもあります。デジタルであれ DX であれ、伝える手段に魂を入れるのは、そこにどんな物語をはめ込めるかに掛かっています。

最近では「物語消費」という言葉が商品開発で使われます。物語消費は人を動かし消費を喚起する手掛りです。街の活性化も組織の活性化も物語がないと活性化が困難だと分かってきました。観光を含めて商品にストーリー性を付与し、それを消費者に伝えなければ前に進まない時代です。他県の方々からみても、沼田には素敵などころいっぱいあるはずで、料理の素材は同じでも、名店の料理に人が集まるのは素材にも物語があり、調理とサービスや什器にも物語が秘められているからです。消費者はそれを求めて名店に押し掛けます。観光という物語のフルコースが必要なのです。

30年前に沼田の方から講演依頼の手土産に頂いたのが立派な「天狗のお面」でした。とても嬉しかった記憶があります。以来、わが家の大天井の柱に飾り大切に我が家のお守りにさせて頂いています。天狗をキーワードに世界に広げられることは沢山あります。天狗まつりを軸に、世界各地の同種のお祭りを集めることも可能です。

厄災除去などを願う全国各地の厄災祓いとの違いなどを集めたお祭りも、その気になればできるはずで、沼田の祭りが天狗なのに山岳信仰など、民俗学的な検証や物語性にまで展開しないことは少々残念です。

ここには古くから人が住み、山と共に暮らしを営む文化があったことが幾重にも示されています。民俗学や考古学の宝庫だということが解ります。こうした事実からも沢山のストーリーが創れます。消費者は物語の中身に心惹かれるストーリーを求めており、そういう時代が来ているからです。

【会長】

ありがとうございました。時間になりましたので、今日はここまでといたします。次回は③、④を、必要に応じて①、②も含めて、それぞれご意見をいただけるように進めさせていただければと思います。事務局にお返しします。

【事務局】

次回の予定ですが、12月22日ということで、事務局も宿題は頑張っていていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

これを持ちまして、第4回沼田市市民構想会議を終了させていただきます。ありがとうございました。